資料３
（参考４）

国内に流通するライターの現状

社団法人日本喫煙具協会

国内に流通するライターの現状

社団法人日本喫煙具協会

１．ライターの分類

国内には種々のライターが流通しており、ライターの分類には大きく以下４つに類型化ができる。

(ｱ)　注入式・使い捨ての分類

○注入式ライター (図1、2、4及び6参照)

燃料 (ガスまたはオイル) を再充填して使用できるライター。

○ディスポーザブルライター (図3、5及び7参照)

燃料の再充填やフリント交換ができない、ディスポーザブル (Disposable＝使い捨て) 式のライター。

機種や着火方式は、注入式ライター同様の種類がある。使用燃料はガス。

(ｲ)　燃料による分類

○ガスライター (図2から7参照)

ガスを燃料とするライター。着火にはフリント式、電子式、電池式の3つの方法がある。

○オイルライター (図1参照)

オイルを燃料とするライター。着火方式はフリント式のみ。

(ｳ)　着火方式による分類

○フリントライター (図1から3参照)

フリントとヤスリをこすり合わせ、発生した火花で燃料のガス、またはオイルに着火させるライター。

○電子ライター (図4及び5参照)

衝撃を与えると高電圧を発生する圧電装置を使い、火花放電で燃料のガスに着火させるライター。

注入式ライターなら、燃料を補給するだけで長期間使用できる。

○電池ライター

内蔵された電池 (ボタン型電池) を使い、火花放電で燃料のガスに着火させるライター。

電池は交換ができる。

(ｴ)　燃焼方式による分類

○プリミキシングライター (図6及び7参照)

あらかじめ燃焼に適した混合ガスを生成し、燃焼筒内部で完全燃焼させる仕組みのライター。ターボ、フレームレスなどと呼ばれる「内燃ライター」やジェット・バーナーフレーム式ライターのことを指す。高温の炎が得られ、風の影響を受けにくい。

○ポストミキシングライター (図2から5参照)

燃焼の時点で空気とガスが混合されるもので、内燃ライターやジェット・バーナーフレーム式ライター以外のガスライターは、 この燃焼方式である。
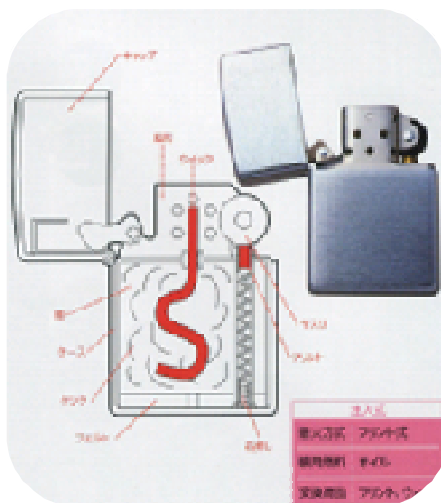
図１フリントライター
（注入式・オイル）
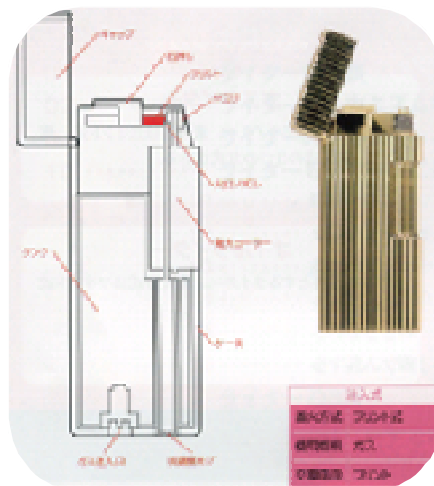
図２フリントライター
（注入式・ガス）
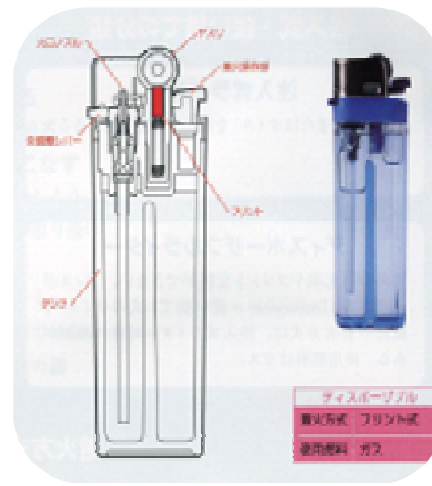
図３フリントライター
（ディスポーザブル･ガス）
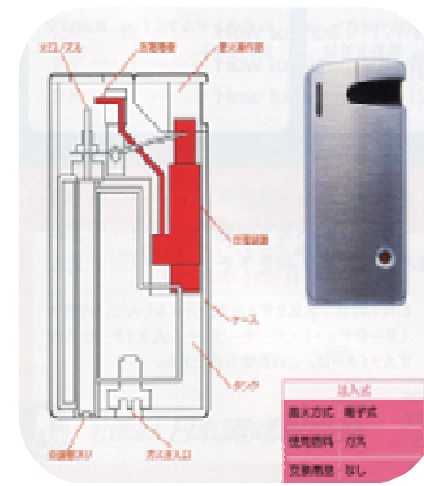
図４電子ライター
（注入式・ガス）

図５電子ライター
（ディスポーザブル･ガス）
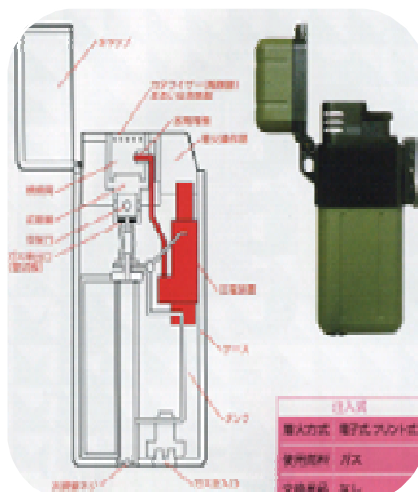
図６電子（内燃）ライター
（注入式・ガス）
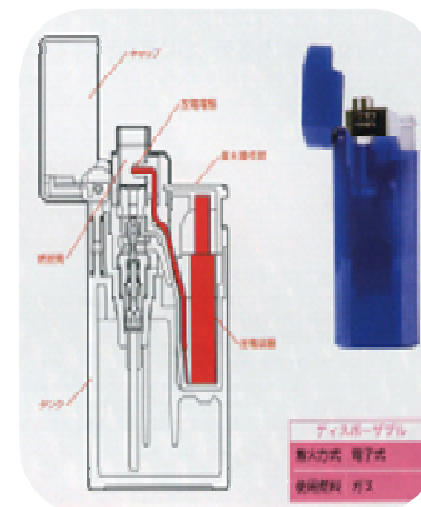
図７電子（内燃）ライター
（ディスポーザブル・ガス）

２． ライターの流通量

(ｱ) 国内流通数量（概況）

○平成２０年の国内のライターの流通量は平成１９年に比べ増加し、輸入及び国内生産の合計は約６億４千万個（平成１９年は約５億９千万個）。平成１０年時の国内流通量は約５億９千万個。
○輸入は平成１０年時が約３億２千万個から平成２０年時は約５億６千万個と増加傾向にある。
○国内の流通量の約９割をディスポーザルブルライター（いわゆる百円ライター）が占めている。

	平成10年		平成19年		平成20年	
	輸入[千個]	国内生産[千個]	輸入[千個]	国内生産[千個]	輸入[千個]	国内生産[千個]
注入式	25,975	2,054	49,456	486	70,489	363
ディスポ	293,849	266,282	444,097	92,800	493,962	77,080
小 計	319,824	268,336	493,553	93,286	564,451	77,443
合 計	588,160		586,839		641,894	

【出典】平成20年　国内需要動向調査報告書（喫煙具）　社団法人日本喫煙具協会
注1：ディスポとは、「ディスポーザブルライター」のこと。
注2：輸入に関する値は輸入通関ベース、国内生産に関する値は工場出荷ベース
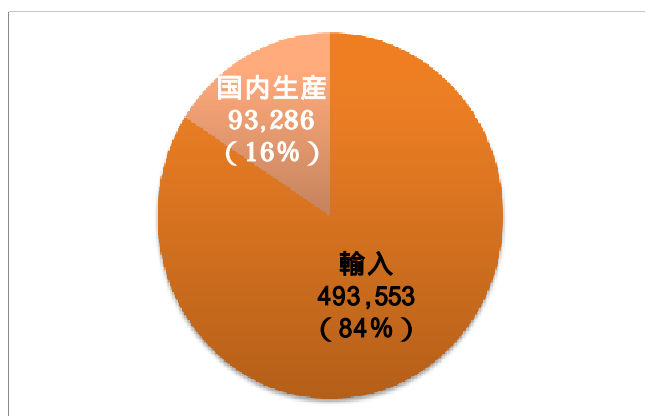
図８　平成19年国内流通数量[千個]
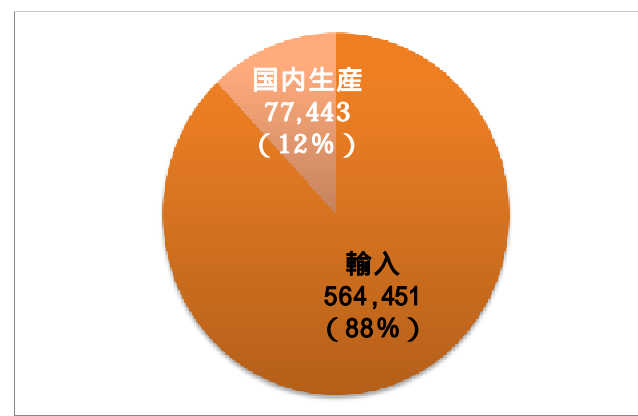
図９　平成20年国内流通数量[千個]

(ｲ)　国内流通額（概況）

○平成２０年の国内流通額（輸入及び国内生産）は、平成１９年に比べ増加し、
　合計は約１７３億円となっている（平成１９年の国内流通額は約１７１億円）。
　（平成１０年の国内流通額は約２３２億円）
○国内流通額に占める輸入品の割合は平成１９年及び２０年ともに約８割以上になっている。

	平成10年		平成19年		平成20年	
	輸入[百万円]	国内生産[百万円]	輸入[百万円]	国内生産[百万円]	輸入[百万円]	国内生産[百万円]
注入式	6,258	2,117	6,823	517	7,928	414
ディスポ	5,813	8,997	6,806	2,960	6,780	2,160
小　計	12,071	11,114	13,629	3,477	14,708	2,574
合　計	23,185		17,106		17,282	

【出典】平成20年　国内需要動向調査報告書（喫煙具）　社団法人日本喫煙具協会
注1：ディスポとは、「ディスポーザブルライター」のこと。
注2：輸入に関する値は輸入通関ベース、国内生産に関する値は工場出荷ベース
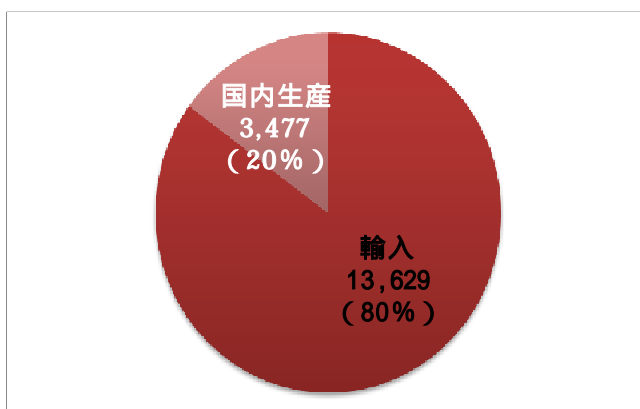
図10　平成19年国内流通額[百万円]
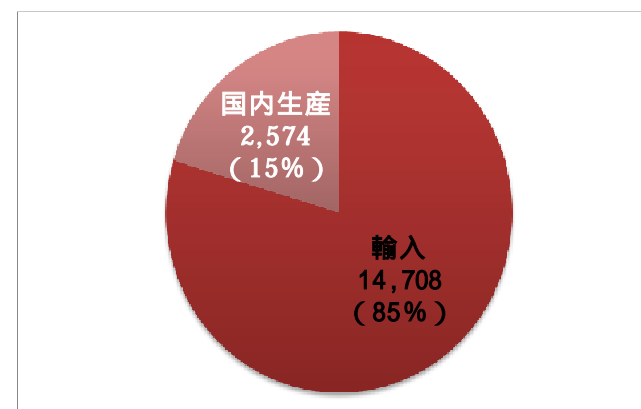
図11　平成20年国内流通額[百万円]

３．国内に流通するライターに関する規制の状況

現在、国内には、ライターの安全対策に関する法的な規制はなく、業界団体による自主規制等があるのみである。

●　業界団体による自主規制及び任意の規格

自主規制とは、製品の生産者やサービスの提供者などが行う自発的な制限のことであり、ライターに関しては社団法人日本喫煙具協会が定める「シガレットライター安全基準」がある。
また、それとは別に、任意の規格として、財団法人製品安全協会が定める「携帯用簡易ガスライタの認定基準」がある。

(ｱ)　シガレットライター安全基準（社団法人日本喫煙具協会）

○注入式ガスライター

社団法人日本喫煙具協会では、ISO 9994-2005に準拠した「シガレットライター安全基準」を制定し、この基準に基づいた型式確認検査を実施している。
検査は会員が製造･販売するガスライターを対象に、公的検査機関へ委託して実施している。
検査に合格したものは、社団法人日本喫煙具協会に型式登録され、型式確認証明書が交付される。また、型式確認検査合格品（安全基準適合品）に対して、「適合品カード」及び「適合品シール」（図12から14参照）を発行している。
主な検査項目は下表のとおりである。

主な検査項目

炎の高さテスト	炎の高さが安全な範囲に調整できること
炎の消火テスト	炎が完全に消火すること
耐落下性テスト	1.5mの高さから3回落下させてもガス漏れなどがないこと
耐熱性テスト	65℃の温度環境に4時間置いてもガス漏れなどがないこと
耐炎性テスト	部品が燃えたり変形しないこと
耐圧性テスト	55℃における蒸気圧の2倍の内部圧に耐えられること
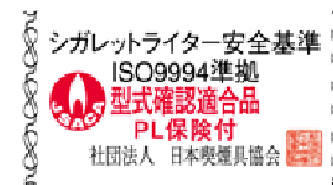
図12　適合品カード（個装箱に封入）

図13　適合品シール

図14　適合品シール(ディスプレイに貼付)
(取扱説明書や製品に添付印刷)

○ディスポーザブルライター

平成１７年６月より、前述の型式確認検査の対象となり、検査に合格したライターに対して、「適合品ラベル」(図15参照)を発行している。

図15　適合品ラベル（製品に貼付）

ｲ)　携帯用簡易ガスライタの認定基準（製品安全協会）

シガレットライター安全基準とは別に、財団法人製品安全協会が定める「携帯用簡易ガスライタの認定基準」（項目は炎の高さ・消火、耐衝撃、耐熱性、耐燃焼性、耐圧性などで前述の「シガレットライター安全基準」とほぼ同様）の検査に合格し、「ＳＧマーク」（図16参照）が貼付された製品もある。
しかしながら、平成19及び20年度にＳＧマーク表示申請をした事業者は国内1社、海外1社のみが現状である。

図16　ＳＧマーク（製品に貼付）

（なお、本資料の作成に当たっては、一部、東京都商品等安全対策協議会報告書を参考にさせていただいたもの。）